憲法類聚追加

四

ワ 3
6205
11

追加

憲灋部類

六

一 延享三寅年十月十八日右之御書付被仰
依願之趣被成候旨
小石川諏訪町探賀屋法之　糀町
五丁目大坂屋吉兵衛方ゟ中番北方ヘ
和製人参売捌候　十二月七日より
薬種ハ売仕候のハ売申者共
方々相用ニ申候

寅十月

東京帝國大學圖書之印
73 6205 11

一延享三寅年十一月二日 於御用番 牧野
備後守殿御渡候 植田十郎左衛門江
相渡候書付
朝鮮人参之儀二而候由 大人参料
人参座人参 本石町弐丁目 長崎屋
并大坂道修町 薬種屋方ニ而 商売致
候者共ハ 右之者共方ニ而相調可申候
右之通可相触候
　寅十一月

一寛延四未年九月廿一日 於御城 松平
右近将監殿御渡候 大目付江 相渡候書付
朝鮮人参 去年座被仰付 人参之
儀は 古来之分 富樹馬方ニ而売候
向後者 右人参ハ 座(?)江相渡候
向精々方ニ而 丁寧判形之儀
相改買入商売ニ而 売申間敷候
唯今迄 買置申候 人参ハ
判形可致候 右之通 可被相触候

而ハ此者ニ而急度判證無之旨
之儀ニ付　御目見以前ニ被申上
候も判證ヲ請ル事ニ付右ニ付実否相糺ハ
支配銀ニ付判證を以請取申候儀候ハ
右之通御本役一役限御免被仰付而已ハ
一但一支配限判證之掃對馬守殿ニ
差出し候而判證を以請取申候儀ハ
　未九月

一寶暦二申年十二月二日[illegible]

之申領ハ
人参座ニ而使御免被仰付候處ニ
右者朝鮮人参取〆之儀ニ付町人
使之者人参請取候様ニ來ル付[illegible]
諸商人御免之間町人使之ハ人参取扱
可被[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中渡取引宛ニ而十年迄ニ而相止候事ニ而
向ニ寄ニ而出来候ハヽ被仰付候

申二月

一 宝暦十四申年六月十七日大坂御書付御渡并
右者大坂蔵屋敷御渡候
唐紫人参之儀唐船ゟ持渡候
唐中之長崎ニ而定高
長崎ニ而[illegible]
出之[illegible]上申人参先
長崎表ニ而[illegible]
上人参[illegible]代銀[illegible]中人参

宝暦ニ付代銀以下増候様小人参ハ
是迄之通之儀ニ御座候
右之通寄一ノ付候

六月

一 宝暦十四申年十二月廿七日松平摂津守殿ゟ御書付
御渡候写
朝鮮人参之儀世上ニ人参撫底
来候[illegible]
朝鮮国[illegible]
之年日[illegible]百姓[illegible]

享保之頃　御代朝鮮より人参種
御取寄相植日光御手当ニ而御植付
其後諸国へ被下有之候処朝鮮人参
江戸表ニ而御薬法ニ被仰付売方
之儀者薬種屋御預ケニ相成
其後陸奥守差上候儀ニ付増長
諸国ニ而御製法ニ　御薬法人参御取扱
神田佐久間町ニ
本郷別当居り出張御買上　唐人参座
御用人陸奥守信濃守東海道筋

京大坂之儀も賣弘め和製法人参之儀
取扱之も御座候薬種屋ニ
御相粗出来候ニ付廣東人参
製之薬種屋並ニ於東ハ大黄之
薬種ハ御上御定法　高麗人
停止ニ　御手和製法人参之
修而之売方御取扱御薬
之其者ニ賣弘め中国旦並直方へ
諸国人参ハ高麗諸国江並
和製高麗人参其之人参ニ対

致シ中買之無之候ニ相渡シ候代
買取候ハヽ以可申候相糺可申もの之
右之通国々之者ニも不洩様ニ可相触候

申十二月

江戸大工支配
神田横大工町三丁目 墨田治助
本町四丁目 播磨屋 庄八
同 吉兵衛

関八州并東海道之内
伊賀 伊勢 志摩 尾張
三河 遠江 駿河 甲斐
伊豆 中買
武蔵 相模 上総
下総 常陸 上野

同三町目
那屋 半兵衛
中村屋 伊兵衛
近江屋 久七
那屋 清兵衛

伝馬町五丁目
伊賀屋 孫八
同 徳兵衛

中略　陸奥　兵
東海道　伊勢
伊賀　近江　尾張
三河　駿河　甲斐
中略

関八州　兵　東海道
伊賀　伊勢　志摩

尾張　三河　遠江
甲斐　駿河　伊豆
中略

伊勢町
伊勢屋　作兵衛
酒井屋　忠兵衛
本町二丁目菓種屋
田町屋　治兵衛
助屋　又兵衛
小松　利兵衛
同　長兵衛

奥野屋　十兵衛
大坂屋　庄兵衛
ひのや　半兵衛
いせや　喜兵衛
北村　久兵衛
金沢屋　義兵衛
いせや　弥兵衛

同 武兵衛
姉ヶ崎 三左衛門
同 文左衛門
同 長左衛門
篠ヶ崎 甚左衛門
以ゆや 与兵衛
赤ヶ崎 市兵衛
鯉ヶ崎 安兵衛

同 市兵衛
大坂尼ヶ崎法泉町
播磨 平兵衛

大坂三郷ゟ中買
右大坂京家之國々商人ともゟ取次商賣致候
中ノ外ゟ右之者買取候節

大坂尼ヶ崎北寺町
居 喜兵衛

同
右同断
右之者去朝鮮種人参江戸買附
小買中継ニ付
但人参代料左之通
上人参壱両目ニ付
代金壱両
並人参壱両目ニ付
代金弐分

同断人参壱両目ニ付
代銭壱貫文
細鬚人参壱両目ニ付
代銭六百文
但同断並細鬚壱包ゟ参包迄
相渡
壬十二月

一明和四亥年八月二日右之通書付松平
摂津守殿江申渡

朝鮮種人参之内上並右京秋台並根
無極印ニ而売買いたし候ハヽ定法之通
以此度白縁因折細銀割人参右
之義者去ル所々出所重之義ニ
此度以後若定法不相背様ニ而
人参座江可承合候

下黄之番
江戸本町三丁目
大坂屋市左衛門
田中屋佐兵衛

堺屋又兵衛
大野村久兵衛
いセや市左衛門
伊勢屋孫左衛門
堺屋三兵衛
田中屋十兵衛
小西長兵衛
いセや武兵衛
田中屋七兵衛
鍵屋惣左衛門

近江屋 藤右衛門
表紙屋 長兵衛
小西 利兵衛
帯屋 久兵衛
大屋 庄兵衛
いせ屋 喜右衛門
いせ屋 与右衛門

南伝馬町三丁目
いせ屋 源八

伊勢町
酒井屋 忠右衛門

伊勢屋 伊兵衛

橘町
大坂屋 平六

京
清水寺三丁目
鴻屋 甚右衛門

二條通
室町西へ入町
香具屋 源三郎

高倉通
上ル 山町
林 屋 平兵衛

右中費先ニ出候ニ付四封印ニ仕右相渡
定当所ニ而黄楊御櫛中渡候紙撰分ケ
上並二通りニ人数并極印致同様入数ハ
右極印ニ付前色封印相止兼而入念
入小半紙入 箱ニ詰相渡
右は 黄楊御櫛中渡候 細紙 壱封毛共
中費ニ出候ニ付相渡候上ニ而向後出相渡候
右細紙人数割人数ニ色封印ニ而
毛さて張合ニ而右之通中費ニ出ル
江戸中東諸出来所其外先々手当ニ被成

當八月松田ニ而 桐渡候ニ而其旨申
師ニ數莱相成候旨ニ付而 白綿ニ而其ニ至
到ニ付之ニ付人ニ而 張極ニ而御在候
壱枚御書ニ而下町場南瑞ニ而 自分当所
出府ニ付役人宅ニ而 張並江戸勝手
ニ而不行届ニ御櫛 御用ニ付
右ニ而 当年行来此之通 其外年々相料出
御伐出 相成候 御用地ニ而 当社相定候
櫛ニ而桐箱候

一 明和四亥年五月六日左之通於書付松平
摂津守殿被仰渡候中松平三郎兵衛
唐和明礬売買之儀江戸京大坂堺
町奉行所ニ而相改売買人共富商之者
同居年右四ケ所町中ニ而触渡候様
右明礬相通之売買致候而ハ会所
可致旨被仰付候自今以後諸國
右明礬之分是迄於町奉行所相改候ニ
差出売買致候而京大坂堺之諸国
明礬之分売買致候者共ニ而

商人共ハ明礬新座之もの共ニ而
京ニ而売渡候通り大坂之者共ニ
可申也
右之通御料ハ御代官私領ハ領主地頭ゟ
不洩様相触候
一 明和六子年六月十二日於江戸書付松平
摂津守殿御渡被成候 山村十郎兵衛
下之松福ニ
明礬并長崎輸入和明礬ニ
持渡り候明礬之儀別帋

右之通被仰長崎表唐和龍脳卸
売捌江戸京大坂ニ而取次所定候
下取締り之費渡り宅茶箱等其外
荷造費龍脳売捌小費等以之可致と
而相増手数料

右之銘柄之ニ而之錦会所也

子六月

右之通り銘柄銘ニ

龍脳座
長崎大村町

伊勢屋平次

取次所
江戸石町三丁目
長崎屋源右衛門

同
京都二条東洞院町
村上文蔵

同
大坂道修町
小川源兵衛

右之通ニ候
六月

一 明和七寅年三月十二日水野壱岐守殿被仰渡
御渡候写 松浦豆州殿へ被仰渡候
神田紺屋町三町目朝鮮種人参座
先達而被仰渡候上人参并人参問屋仲人参
細鬚人参刻人参売出之儀相触
所々土人参問屋同様取扱来候処向後
並次人参拵候人参座ニ而売渡候条
無之一ヶ所ニ相極候
並次人参 代[illegible] 壱[illegible]目
同 日 壱分 [illegible]目

同 日 長崎屋・小沢屋 同
右之通江戸中町家寺方ヘ不洩様ニ
可相触候
三月
右之通ニ付相触候

一 明和七寅年六月廿九日水野出羽守殿被仰渡
御渡候写 山田十左衛門相触候
江戸新材木町人参安藤表国寺
高崎掛り庄ニ而広私積御見之之候

共ニ可取扱旨被仰付候ニ付申達候

六月

一明和八卯年正月四日水野出羽守殿
ニ而御渡ニ付松浦与次郎ニ而相渡

江戸本銀町六丁目
信濃
若狭出来
今泉出雲

右之者共此度信濃陸奥出羽国

於御領分町〃在〃寺社領
朝鮮種人参生根を以貴候者
尚人参作出候ハゝ何方ニ而茂
申出候ハゝ江戸之通作候由を相書
取ニ出シ取計其外買弘
方を以来取扱人参買弘申渡
置候ニ付江戸本町人参
中番頭并伊勢町但薬種屋并
伊勢町伊勢町之外買者共人
参買取候者ニ共取扱候為買

渡し候ハヽ右反別ニ応し十両ニ付
作徳米為御褒美被下候人別
貴殿方ニ而〆高ニ而取極候

右之趣御料者御代官支配有之
所ハ其村私領ハ領主地頭ゟ寺社
領者其所触頭ニ可相触候

十一月

右之通ニ而相触候

上州新田郡本町
業体
文次郎

右之者相模安房上総下総常陸国
城下并宿場其外村々町在迄
役人共相対申付候間
之旨ニ而取極候

右之趣御料者御代官私領ハ領主地頭ゟ
寺社領者広く触ニ而相触候

十二月

右之通ニ而此度相極候

日本橋坂田町壱丁目
岸 宜兵衛

大坂橋町壱丁目
扇屋三郎兵衛

東ノ堀五丁目
萬白屋伊三郎

坂田町壱丁目
辻 伊次郎

同町
竹屋清兵衛

右之番先山城大和河内和泉摂津国
播磨備前美作出雲石見隠岐伯耆因幡
安芸備中備後安芸周防長門紀伊淡路
阿波讃岐伊予土佐筑前筑後
豊前豊後肥前肥後日向大隅薩摩右三拾
三ケ国ニ朝鮮種人参相対売買
賣弘ニ相成候ニ付書付を以而ニ右
右人参賣弘之義者大坂朝鮮種
人参賣弘会所ニ而申迄直段掛合
製法賣弘下ニ而出来人参取捌之代

今上納得と存し候得共當業ニ候分
候間急度と申し付置候得共信使衆所
並到少年到着申渡ス
右之趣御祝と御伝奏承候而申付し方而ハ
右者和泉様御免地御座候由候申出之趣
織田家土井出之御役人申付候

十二月

一 唯和八卯年十二月十五日水野和泉守殿江差出候
御書付

朝鮮信使人参買取之者相改申候
手段所存候趣ハ、右之通ニ請取候之段
申候人ニ者不及と存じ候御下知
之可申上候処御朱印ヲ買取申
趣被仰付、其後者之段被成
其先ニ而ハ買取之押買被仰付
右ニ付者候ハ其後為御取扱候
御座候て、品物押買無候儀候而
且其段候て申、所々御出之御
右之通申し上ヶ候以上

十二月

一明和九辰年正月より当十二月迄書留置申候
如斯御座候以上御用之節差出候様被仰付
ニ相認候

江戸浅草材木町
安兵衛
吉兵衛

右惣代伊賀伊勢志摩丹後丹波但馬
並出羽近江若狭武蔵右拾六ヶ国ニ相渡候

人参御封並小売之儀弘メ申様申渡候御渡
右国々ニ而ハ手広御渡候而不申御封之人参弘
元〆共ニ取扱候而ハ何共行届兼候ニ付人参
弘メ方之義被仰付候ハヽ国々之者江申付
人参手ヶ之御様元代金之儀は限取立ニ而ハ手支
無之様為御取計ニ付前段申上候通り
御注意ニ付右之段相願候ニ付御座候
中略

右之通御斜至而代金差上ヶ申候為後日依而如件
年号月日 前書之通相違無御座候

陣下而上方之通相揃可申候

卯十二月

日本橋坂本町三丁目
岩三郎

大坂屋町三丁目
扇屋二兵衛

本八丁堀三丁目
豊田屋卯三郎

坂本町壱丁目
辻伊兵衛

同
竹金清兵衛

右ハ五畿内山城大和河内和泉摂津丹
幡伯耆石見隠岐播磨美作備前
備中備後安芸周防長門紀伊淡路
阿波讃岐伊予土佐筑前筑後
豊前豊後肥前肥後日向大隅薩摩
右三十三ヶ国ハ朝鮮種人参取扱
所々売弘候ニ付中沢ニ書付
東之三十三ヶ国人参売弘方ハ大坂
朝鮮種人参売弘方ハ中迄更
割ハ中ニ而是迄之人参売弘之代金

上納月延之儀ニ付酒造家業之儀
仲間惣代共ゟ相願候儀ニ付右願
趣取計候処申渡候ニ付太(?)科料
此度支配方之者共へも書付ヲ以
被仰渡候ニ付相違無之様仕
右之通申渡候ニ付相願候

卯十二月

右之通ニ而相済候

一 安政二卯年正月晦日於御番所被仰渡候

此度被仰渡候ニ付同月廿日集会いたし候

宇治河原材木町
美七
善兵衛

右之者伊賀伊勢志摩丹波但馬
並諸国若狭越前越後等十ケ国
鮮魚之儀拾人程壱人ニ付拾両
共初十一月中申渡候ニ付其段
之人数相定候右ニ付都合申
其段し候

江戸小舟堀留町壱丁目
岩三郎

大坂順慶町壱丁目
庸屋三右衛門

江戸平松町壱丁目
須田屋伊之助

同坂本町壱丁目
辻傳次郎

同町
竹屋清兵衛

右之者共ゟ加入仕候ニ付此段奉申上候
右者共之内当申年中ニ株式相改候

御株式差支無之候

右板株相改候上[illegible]御役所御支配
[illegible]

願書之趣御下知相済[illegible]

辰
十二月

右之通一ノ組相願候

一 寛政七卯年壬七月十五日深更右見七人数
参宮ニ渡り候名前 山川中総右衛門

下谷池之端仲町 堺屋 治兵衛

同所 堺屋 庄助

日本橋坂本町 辻 伝次郎

中ノ竹町 ツヽや 善兵衛

寛政三年亥本町
南伝六丁目

右之者今年諸国 山城 大和 河内 和泉
摂津 伊賀 伊勢 志摩 近江 美濃 若狭
丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見
隠岐 播磨 美作 備前 備中 備後
安芸 周防 長門 紀伊 淡路 阿波 讃岐
伊予 土佐 筑前 筑後 豊前 豊後
肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 右六拾六ヶ国

朝鮮種人参来寅年よりハ製弘
め候様中渡候書面之通二而人参
製弘並ニ志ハ京大坂朝鮮種人
参製弘会所ニ而中迄来寅年より
売捌製弘所ニ而取扱候ニ付
売捌之儀ハ不残是又人参御
集り候分田安ニ而懸り候
御用所ニ而取計ニ付
右之趣御料私領寺社領共
不洩様可触知もの也

其所之社寺領ハ領主地頭ゟ可相触候
城下ハ在町共ニ触知之可相触候

寅七月

右之通ニ而相触候

一 天明二寅年七月右京大夫殿御渡二付
御渡御同月御勘定奉行松本伊豆守殿
新長崎龍脳和製之儀
御用掛り二而 御勘定所掛り
唐和龍脳取引相互ニ江戸京大坂ニ而

依之此度改定改法者前々之通被仰
出茶屋其外旅籠屋貸座敷貸候小
屋掛ケ候儀ハ相止メ申候先年之通
子年相願申候處貸座敷相止候
右体被仰渡候儀も商人の見
掛ケ之手当ニ付此度ゟ御改
貸座敷貸候儀ハ相止申候
右之通ニ付相願候
七月

右之通ニ而相願候
天明七未年十二月十六日以書付ニ而安田
伊平ゟ厳敷被仰渡并ニ御達ニ付左之
朝鮮種人参之儀享保年中ゟ御
手作被仰付候ニ付来勝手之儀被仰付
来ル渡世ニ而相成候處御用中ゟ
御渡被成宝暦中之御年ゟ　御神田
銀座所三丁目ニ人参座被仰付
置候右人参座相止

此度元阪田町中坂之人参製法家
相分り出雲屋喜兵衛と申者
兼而申渡置候通り重而ハ於其家
承引せしめ請負申付候処請人両人有之
あきなひ之儀不正人参重く止メ候
製法取扱代料ハ勿論出雲屋江
且人参之儀ハ売買之儀請負候商売
山く株等之代料之儀別段ニ致候
中渡候ニ付人参売買之義ハ勝手次第製法

取扱之儀者可請負申ハ
右之通り申渡候

十一月

朝鮮種人参之儀者年来御発当御制
禁之処此度御免之上御手作之事ニ付一己人参
拵方之義出雲屋方先ニ而致制方候ニ付
之右町組並種人参元々中御手当相
成候ニ付従来之町並種而見ニ相済
事ニ候ニ付之候而後候右紙面ニ而
右ニ付諸向種方ニ而人参ハ売之

薬種目利之儀ニ付被仰渡
御座候ニ付差出人参望候者へ
拵候もの八中西月畑ゟ御出来
相済ニ付候上者御時節御見申
ニ御座候
右之通御料当座代金取候ハヽ御手
様取計可申候 右者御代金ヲ以手形
ニ御座候　十月
右之通ニ御座候 以上

朝鮮種人参望候者へ売渡候代料
左之通
上人参 壱両ニ付　代銀七拾匁
並人参 壱両ニ付　六拾匁
割人参 壱両ニ付　四拾匁
同折　三拾匁
細鬚　弐拾匁
但 上並同折 鬚共小半両宛ニ御渡
割者弐両包ニ而相渡候
右之通ニ御座候

天明八申年正月十二日 松平主殿頭殿江
御渡候御書付

廣東人参之儀 近年賣買人多く
仕候而取締方相成候ニ付
其国々取締方不宜候間 此度御免
之上 向後 向後賣買
之儀 不相成候旨 可被相触候
右之趣可被相触候
正月

寛政二戌年八月十六日 御書付 松平
越中守殿御渡 御目付中川勘三郎
江渡候
唐薬種類 諸国ニ而植付
植付候 仕候儀も 近年
手広ニ植付いたし候故 之儀
取締不宜 唐薬種類之儀
取締 漢方医共 銘々
之中絶 相成 候

貴札令拝見候人々に渡候条々忝
次第古今伝授切紙之事承及候
無其隠年来望御座候条承候
被仰候古今集相伝之儀無心元候
[illegible]候[illegible]被仰候[illegible]
無二扁候御所望も未[illegible]伝授候御伝摩[illegible]
御手[illegible]伝授之[illegible]古今集相
之事桂殿伝授之[illegible]
候[illegible]御[illegible]
別紙之通御[illegible]申候[illegible]

思召候古今集伝授之内[illegible]候
相伝[illegible]上[illegible]一統[illegible]
儀[illegible]和歌之[illegible]切紙[illegible]
古今[illegible]
被[illegible]桂殿[illegible]
[illegible]桂殿[illegible]
[illegible]古今集[illegible]
[illegible]古今集[illegible]
古今[illegible]

右之通御料ハ御代官、私領ハ領主
地頭より不洩様可相触候

卯月

近年来唐蜜柑菓種寺々江遣し植継
候付、江戸京坂表諸方ゟ菓実を取寄せ
諸国御代官之陣屋門ニ而も遣し菓種植継ニ
江作付候ニ付菓種植継一覧相成候ニ付
右菓実を取出可申菓種苗等植付
製し方も書付差出之者相改候趣聞糺

入用之苗木取調可申事

一 当時所持之菓実之分ハ菓種之分并
植付之分其外菓実之分早々
取調之上菓種者ハ出来之上ニ而未熟之不
残有之分者遣し取人二而成
苗木ニ而も其外遣し候分共ニ至
迄の分可申事

一 御料御代官所ニ而相触候ハ、苗木植方
之儀并取極置候等出来可申
其菓実之品ニ付而者の分事

一 順よりハ順之内吉日相撰候而も
桂被仰付候ハヽ何時ニ而も為致
桂候段申上候様ニ与御沙汰

一 寛政二戌年十二月廿四日左之御書付堀田
摂津守殿ゟ来ル御渡候由同月御渡若年寄衆達
朝鮮人参候様掛り之面々可被申聞候
惣而度々来聘之儀宜敷御心得候
朝鮮御用ニ付宰相中より朝鮮程之
人参代銀被仰付候段左之通申上候

然長崎表ニ而朝鮮人参之儀ニ付
申候処
御座候而御取計　被仰付候段
然処正路之儀ニ而其段申上候
朝鮮人参御用ニ而被仰付候
御座候御用之御座候ニ而[illegible]
次第ニ

右之通ニ相伺候

追加

憲法部類

一享保二酉年十一月廿六日美濃之間御役人
一同年御老中若年寄衆御列座ニ而
右之御書付之通石野大和守殿被仰渡之後
被抜候之旨ニ右御役人之人窮之者御出府
之通窮大久保長門守殿被仰渡候

右被下置候年前御役所金を立て之
金子之貯貸いたし 返済仕むさあり
ゆへ候え 第之貸付取罷越 御祈神尾
大岡備前守神尾五郎 神尾新右衛門
金之遣中之取寄返済候ニ付 書之

候ニ付召捕置候処追放ニ仕候
常々相守候様可申渡候へ共
輩も有之由不届ニ候間向後
右躰風俗之者有之候ハヽ見当り
次第召捕候様町役人共ニ可申
渡者也可相触候
酉十一月廿六日

一 享保七寅年十月十日此書付従来町中江相触候

覚

金銀之儀ニ付近年相対ニ而
申合候処諸国ニ而金銀両替
之儀ニ付其以来不埒之儀有之
候ニ付御吟味之上一同ニ
被仰付候向後右之者有之候ハヽ
其所より急度可申付候

右之趣町中不残可相触候

寅七月

一 享保四亥年七月廿七日於て御書付ニ而
大学頭江相渡ル
三笠附等之儀停止之処、猶以武士屋敷
并寺社ニおゐて大勢集候事も有之由風聞候
不届之至候、別而仕置可申付候、向後
武家屋敷町方共ニ不埒之儀有之ハ、武士
屋敷ハ其主、町方ハ名主并家主迄も
急度可申付候、猶更相改可申付候
其旨江戸中ニ堅可申付候
右之趣可被相触候

亥七月

一 享保四亥年十一月十六日於江戸御書付仙波
喜多院江相渡ル

覚

一 近年金銀出入多く成、評定所寄
合之節茂此儀を専取扱、公事訴訟
裏ニ罷成、評定之本意を失候、
借金銀買掛り等之儀ハ人々相対之上ニて
事ニ候得は、自今ハ三奉行所ニて済

以之外致役筋ニ候段相分り支配頭ニ
而不届之至ニ候得者此節差替申付等
但右ニ付而ハ名主并組頭へ申聞吟味之
上可申事

一 惣而右之通申渡候上ハ日々見廻り相改
家業ニ念入取締之儀可致候
ニ申付候事

以上

亥十二月

一 享保六丑年八月六日　御書院番頭・御小姓組番頭　新番頭・小十人頭

支配御目付　御勝手掛り　右之面々江
右川近江守殿被仰渡候御留守居江
写之通被仰渡候組々江申渡候様ニとの御事ニ候

小十人頭飛騨守組
萩原弥太郎

一 弥太郎儀御書院番人共並ニ参り
惣而者中弥太郎父子ニ越之程ニ御座候
就夫ニ右一件之儀承知仕候ニ付
通ニ而二三人申候ニ付別段ニ而
兼而見聞仕候不届之儀ニ候

未済之儀ハ是又ニ而此條沙汰御書
之上自今可被仰付候得共、かよふ之
儀共無之様ニ急度可相守、若此
博奕打候もの於有之ハ、其品ニ而一件
之者共迄、捕候、其者共入置候様
品ニ寄死罪ニ　被仰付

右之趣屋敷中へ可被仰渡置候、急度相守
候様組支配之者共江可被申付候

八月

一享保八卯年六月八日御書付写松平

総登之嚴蔵被仰付申来候法を請候様
三笠附博奕之儀ハ、先達而被仰付候処
俄書付を以被仰出候、寛八刻之御料
私領共ニ　右之趣可被相守候
但、百石以下之面々ハ、右之通名主ニ申
付候様、高書相分、家来迄急度
申付、役人之申付候備を以、急度可申付
可申事、一申付候事

卯六月

覚

一 三笠附博奕并惣而博奕いたし候もの
吟味之上村々ニおゐて申付事ニ無之候
以前は博奕三笠附并博奕致候者共之儀
審ニ相糺自分之支配所ニ而名主并役
吟味ニ相掛り村々之もの共一同申合
不沙汰ニ而三笠附いたし候もの有之候ハヽ
其方限ニ急度相糺シ申付候
但三笠附之点者金元宿致候ものハ別而
重科ニ付手軽ニ吟味いたし候ハヽ其もの
差当り博奕同様之上ハ急度可相勤候

其段伺申付ニ及上可申事
一 博奕宿致候者并博奕打ニ而も其科軽く
唯し手ニ付候儀ハ相当之過料申付候
敲并ニ及候ハヽ伺之上可申事
一 三笠附并博奕打共重科人之科ニ而
他国を離候者ニ付ハ不埒者共地を立住居ハ主人之
差図ニ而可申事
一 博奕打共之儀ハ其頭之者共之吟味仕候得ハ今般
御料ハ其支配之科ハ不届之者共ニ付
御料ハ御代官私領ハ領主地頭より可掛

之は田方之耕作ニ上ヶ候共ハ、反歩事

一 木綿之耕作方上ヶ候年寄組頭立合帳面、
記し置無高百姓村役人ニ為致、其耕方候ハ
作方ニ掛り候無高百姓江申付候之判取
可申置事

一 三笠并博奕等致候もの耕作不精成
相成らざるものハ捕置可申事ニ候得共
右之通不届成者共定候間、所名主ニ而
急度役人方ニ而申付候ニ付役人見遁之候ハヽ
一己之料簡ニ而見遁し候ものニ付

出切之ハ名主組頭ニ而可申事也

卯六月

一 享保十一午年三月松平紀伊守御書付出所
中江御触

覚

一 證據無之ニ付、大坂日本橋ニ高札
建候間、其外村々ニ而茂右之趣を相渡
置候而名主支配切ニ書付同前ニ下ニ
達し置年月之年之慶ニ致ニ相渡候ハヽ
為見合申ニ而名主之支配之者ニ申付可

三ヶ所ニ而違乱ニ而申付
右之通町中不残可相心得者也
午正月
覚
一 京都上京寄合元来役高ニ寄白粉染
一 帳面朱引并請負高右之儀ニ付
正月より相改もの共ニ無之宿ニ而可申
所以後急度相慎可申候若此者共ニ候ハヽ
右之通町中不残可申付事
右之通ニ付当正月寄合ニ而思案之上最早
御当正月之儀ハ先年正月之儀被仰付候ニ付
ニ而も町中支配新規ニ無之様可被仰付
候ハヽ以後ハ此方ニ而承知仕候事
但以前より町中ニ而相談之上白粉自分
ニ而思案仕候ニ付有之候ハヽ急度相慎可申
申付候ニ付此旨相心得可申事
一 此度中年寄上京相談之上惣町人

銀貴ニ成候ニ付是迄之借銀分
借人ゟ難儀之旨相願候ニ付金元ニ而
右為取替し候金子ハ元金ニ而返済致上
利息之儀ハ金ニ而上ヶ百目ニ付壱匁ツヽ
相渡し可申候間借人共ニ而上ヶ候所之間ハ
急度可相守旨申付候事

右之銀子相切百目ニ付かねつもの意趣ニ而
銀中ニ而申候得共急度相守者也

享保十一午年正月廿二日

一 享保十四酉年十月廿七日於江戸堀村上
源右衛門被申渡候ハ
元禄年中金銀吹替之節数之
通用之儀金子ニ而借用銀相改
借用銀利足之儀ハ御定之通ニ而
借人難儀之由ニ付元禄十六年
年々借用候借金銀ハ相改利足
不下候而者不相成旨申渡し
借金銀を返済手形をいたし遣し
借用返済之儀利足同前之事

一唯今迄之利ニ相渡分ハ元金利合
減致し候様可申事
一右之趣致承知此上は遠路之様ニ急度ニ相守
猶又此以後相済候ハヽ猶又相守可申
之者共ニ而差引相心得候様利金ニ付
儀も借金之儀相守可申事
一新規ニ借金等相頼候ハヽ
みたりニ致間敷すへて可相守事
右之趣急度可相守者也
酉十月

一享保十四酉年十二月御書付被仰
出候所ニ而相願候は
金銀出入之儀諸事於其所不ニ而上へ
差出候年々相願候様ニ付金銀並
相済候而も其所ニ而取扱正ニ
借金証文之儀ニ付於其所ニ相済
右上裁許ニ付借金三ヶ年ニ而相済
仕出候之上当事ニ付相違之
十二月

一享保七子年十月廿八日於江戸書付御渡
雑兼情ニ而来候ニ
御殿西丸出火之節当番者登城之節候者ハ
出頭番者並安藤様御手数ニ
候二宮官諸中浪人之ように致候節
付て此度仕勤之并右罷出候ハ
宿次第ニ付此儀ハ罷在候候ハ
致罷、致候ハ自分ニ其為可候
之為候ニ付其為ニ付同罷ニ参り

共ニ急度可相触之
右之通り之書付御渡候
十月

一寛保元酉年四月廿七日於江戸表ニ大学
殿御渡候
被退候由ニ候然ニ近来悦與同様之儀も
出来候もの有之停止之処近年も右相増候由相聞
今般相止事ニ候近年在之彼是差支之趣ニ候
然ニ付茂ニ若候得ハ右之通り申候
右商人相談候而相分り不埒可申渡

此度西中條ニ向後右衛門ニ被仰
武士方寺社方町方出入方共ニ其外
商人共ニ至迄此度致改之人組名簿
一町ニ内ニ出来候ニ三ヶ所ニ付申聞候
組ニ而中條之条常ニ而西ニ御用諸役候
銀高之相改之可申上ニ付可申

酉巳月

一 延享元子年六月二日 御書付 本多中務大輔殿 西尾隠岐守殿
蔵御渡ニ而 銅座 御勘定所之相渡候

道中奉行方より諸物貫目之儀伺候
右御書付ニ而亜尾張表御
申渡候御改之節御勘定之
御座候向後銅座出来候ニ付申
聞候之処御勘定所ニ而出来候
右之金銀銭御勘定所之相渡候
右奉行所 町方共方より申渡候

御目付方へこの通達候

酉月

一 延享三寅年三月廿七日 於御城
松平右京大夫殿ニ而御渡被成候ニ付相渡候

一 借金銀賣掛等、去年未年迄之諸訴訟、
中絶いたし、向後三年以前子正月より
金銀出入之儀ハ、当子上裁許之
中絶以前年月之去ともに裁許
出入ニハ不取上候得共、下ニ而年寄
裁許ハ、日切申付候分ハ、向後
差引取ニ不申付候
済急度ハ可相済

一 唯今迄金銀出入ニ而来年迄不申、済候
ニ付、金銀出入ハ、済方中絶いたし候
金子借置候輩ハ、返済之儀を相滞候
為ニ無之、返済可仕旨申付候得共
右出入ハ来ル年済方中絶いたし候
可成ニ付、輩ハ、年寄共ハ、家業
新ニ申付、中年寄其外共ニ
奉行所方ハ、奉行所より可申渡候
ハ、中絶ニ

子三月

一宝暦九卯年四月十二日夜四ツ時松本
稲荷社敷地之内ニ捨子有之候ニ付
借家共相談之上金子差添候而右衛門
与申者方ニ預ケ置申候ニ付右衛門
ニ而も乳持無之ニ付其後乳金并切金有之
者ニ遣シ度旨ニ付右衛門方ゟ金
子差添茶屋町平次郎方へ遣候而
其後右衛門より差出候由

併定而之者共見届相改候ニ付可致
旨被申候處右衛門儀左之通り御請書
差上候得共養育金之儀中村方ニ而
有之候ニ付右衛門申候ニ付右ニ而
申付候而相済候
不埒ニ付表ニ而町役人立会候而先
ニ相成候得共如何ニ候得ハ其上右衛門
ニ而も可申付候而可相済旨
ニ付御奉行方ニ而平次郎へ被仰付
中野屋次兵衛へ金子一両三分余ニ而
未熟ニ付右衛門方へ稲荷社地茶屋町

右ハ当時私方ニ而急度申付置候
右之通ニ而相願候
四月

一 寶暦九卯年七月廿日左之御書付松平
和泉守殿御渡候旨御右筆組頭より相渡候
組頭之衆へ者御役替等被仰付候節
今迄之通勤候様可被申渡候
以前ハ組頭之者共へ申渡候処
[illegible]
今後御役替之節者組頭より可申達候
江戸御留守居之衆へも申達候様ニ
御目付より申渡ニ付申達候
一ヶ年程御目付衆へ右之通相届候
右之趣組頭中へ相達候様
七月

一 明和二酉年六月廿二日左之御書付松平右近将監殿
御渡候旨御右筆組頭より相達候
被相渡候御書付之写別紙ニ有之候

申立ニ而利ニ而世上ニ借出シ候節ハ
利足之大分有之事ニ而壱割八分之利足ニ而
拝借願出候ニ付右之願書差出シ重役衆
御時節柄ニ付御貸附金相成候様ニ御下ケ
其上ニ是迄之通ニ被仰付候様奉願候ニ付
置ニ而も宜敷旨ニ而猶又上納之儀ハ
右之振方ニ而御座候処御聞済ニ相成候ニ付
其段被仰付候様ニ仕度旨ニ而御座候
前ニ申上候通ニ而左右之利ニ而
右ニ付仕立候様ニ而拝借金

置可被下候様之事ニ付御取扱之儀ハ
こと利分之儀者御貸付之内ニ而
去年中ニ御貸付金御下ケ被成候処
御目見得之節拝借之儀申上候事ニ而
之年々ハ御手当之儀ハ被仰付候
御座候ハヽ御貸附金之儀御座候
利分之御利足之通例之利分之内
実ハ之ニ而利分之仕法ニ而御座候
立候分ニ付借用之儀ニ付
相成候様被仰付候様奉願候

御触書写候付、右之趣此度
支配之もの共江不洩様可申付候
右之趣早々請印致し、此廻状
村名下江請印いたし、早々順達
留村より可相返候
但、御触書写之儀者当月中仕候
不及ニ候、乍然御取計之事
之余(?)者致(?)自分(?)今(?)之御申
候、御触書写之上、書付(?)
之趣仕候様

右之趣町中江可相触候
右之通町年寄より相触候間、得其意可申
其事候

十二月

一 明和六丑年八月十九日松平播津守殿
御家中御留守居当分江相触候
御奉行三笠(?)を以 町奉行所(?)
御奉行中江御触候、御請書付
御触之趣惣代(?)を以前書之
中(?)御触之事候、御下知三笠所(?)相願

若松村ニ而右之外出料所村々御代
官所ニ而役人両郷町本紀右衛門と申
御代官所ニ而取計ひ候ニ付役人ニ而有之
正月御蒲補遣し而若者之筋ニ候
而を銀奉ニ付右衛門得と申二所一役人
地頭御役
自分伝馬ニ付他所ニ而用ニ付 右衛門得
一ッ之ニ而相済
右之通相済候一ッ之ニ而相済

一 安永六酉年正月二日松平伊賀守殿ニ而
日下仕候御用ニ而相済
御宥称之御用筋之者石母(?)御用
之方ニ而相済候ニ付相願候ニ而
御用を相済御宥奉願候ニ付之右
諸奉願候ニ付奉願候ニ付相済
出来候之段申上候右之相成候
申之御用相済候之通相済候
右之通ニ而相済

三月

一 天明元丑年正月廿日御書付若年寄衆御渡ヶ敷
家来御渡御目付柳生主膳正殿江
銅座並大坂表ニ而是迄真鍮之儀及吹方候得共
新規ニ鉄(?)真鍮吹方与申を取立ニ付是迄之
大坂表之者共銅座ニ而切(?)々寄(?)付(?)真鍮吹方候
然共向後者右真鍮吹方之者共其ニ而も
大坂表ニ而座方より請取候ニ付是迄之通
若年寄より申渡候ニ付其段申渡候ニ付
大坂表右之者共ニ而も其段ニ而真鍮
唯今迄之切々寄付(?)候得共此度相改候
外方より此外真鍮吹方之者共ニ而も
真鍮吹方之儀者唯今迄之通ニ而相済候
其外真鍮吹方ニ付而者相違無之
向後者右真鍮吹方之者共其ニ而之請取候
之義ニ而候ニ付其段申渡候ニ付真鍮
目(?)方ニ付其ニ而其段ニ而相達候
一 右之通ニ而其段申渡候ニ付相達候
右ニ付座方之吹方ニ而も真鍮吹方
触(?)之可申候
右之通宝暦九卯年相触候ニ付

年頭御祝儀献上無之、右ハ来年
ニハ前々之通可被差上旨
難心得候ニ付、此段御伺
候ニ付、右之通御書付を以被仰
被成候、且又御年寄衆御手紙御座候
遠江様へ被仰越候旨書状ニ申来
御年寄衆左門殿御手紙ニて
右之通り以相触候

壬三月

一 天明八申年正月十二日 松平[illegible]殿
より年始御祝儀として献上之品御書付
御老中様[illegible]御目見[illegible]御礼[illegible]
[illegible]御手紙[illegible]御老中様[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

御用捨其外往還ニ而往来之者所々ニ而
もの共ニ至迄万事相改ニ而御
高札御触之通り諸事相守り
候様ニ可申付旨被仰付候
右御用之趣申付候
右之趣町方年寄共ニ申渡并町
在村役人共江申渡ニ付町役人村役人共へ
組頭并長百姓申合町ニ而町中家々
ニ而も組頭其外町内末々迄ニ而申渡
申渡ニ而日限ニ而急度相守候

右之通申付候
右之趣御料私領寺社領町方ニ至迄
相触可被申候

正月

寛政元酉年九月八日御老中松平越中守殿
江御渡被成候御書付左之通

御書付之覚

蔵宿共ゟ武家方江貸付金古借棄捐
年賦済方仕法借金利下ヶ仕法

御改正ニ付　仕来候ニ付右貸金一紙證文ニ
御年賦被仰付候入組之儀ハ申立候得共金子
引合方ニ而御蔵宿之者共臣申付細
事ニ而ハ申付中々御沙汰ニ無之候間相立
右仕立勘定方相違無之候得共心得違
之もの有之候ニ付蔵宿共差越等之儀有之
可申候得共御改正之御趣意ニ相背候
不届ニ付御沙汰ニ及ハ不申候間右ニ相違無之
訴ニハ不及候事
九月

寛政二戌年十月海野書付差出候処申渡
去年御改正御用懸衆被仰渡候処和談相成
蔵宿貸金之儀古借棄捐新借年賦
諸方旗本御家人江貸附候儀
借附方之儀古借棄捐新借年賦利下ケ
入組候儀ニ付御書付之趣相守
御預り金之儀者御勘定所江差出及
差出候得共銘々入組之儀ハ
一統銘々此段相守相心得候

守候様被仰付向後限寺社十年以後
可被仰付候事

同年十一月六日於江戸御書付対馬守殿より御渡
井上遠江守殿御書付を以御達候

御蔵米取之面々蔵宿より借金致し
前々借入候分之儀ハ去ル卯年
先達而御沙汰も有之此度ハ猶又
去ル辰年以来借受候分相対を以借
出候分借用金之儀も去ル

一此度蔵宿共え被申渡候儀ハ一躰
蔵宿借金之儀利足高利ニ付
是迄之通借用致し候者も有之
相対之上
これ迄之儀一己之利分を以
借入候分
其外去ル年之
是迄蔵宿共之借受
候ものも
窮之者借入候

差遣し候ハヽ、相済し候ハヽ、求メニ応し
相模守殿江御内意之上ニ而被仰達候様
之儀を相尋候処、右之趣相心得候旨申
候ニ付、右之趣申上候処、尾張殿ニ而相済候
信濃守殿江御内意之上ニ而ハ
右之趣申聞候処、其後早速御目付之面々
相模守殿ニ而宜敷由被申聞、相談之上
信濃守殿江相伺候ニ付、又御用之儀ニ付相伺候処
黒田甲斐守殿中屋敷ニ而御用番中ニ
御用番中尾張殿御勝手御掛之事

中将様御都合次第可被遣旨被仰渡候
然処御沙汰ハ無之迄ニ御座候、
然ル処右ハ先達而御尋之上、一通り御申達
其上者御用番御座候ニ付御勘定奉行
御家老御内々御沙汰一件之儀ニ付、右ハ可
ニ候得共、御沙汰ニ付[illegible]
中将様御用之処、然ル処、右ハ此上
此度右之趣被仰渡候ニ付
御先格相心得御勘定[illegible]
其外御沙汰ニ付[illegible]

猶其旨候
右之趣向之兵騎馬記とも于今不相知の
義候
正月

中的

憲法部類

一 享保五子年十一月十六日於江戸書付小笠原
平兵衛殿相渡候

一 水道普請之儀此以前ゟ遠州元町人共ゟ相対
ニ而普請仕来候処此以後ハ堅キ
普請ニ不及 道奉行ゟ相達候共
申付候事

一 右道水筋見分仕候 御家内并
道奉行見分仕候ニ付 相対ニ而可申付事
可申付事

子 十一月

一 享保七寅年八月十九日於江戸御書付石川
近江守殿ゟ御渡被成候ニ而為御知被成候
千川上水之儀中長ヶ掛り候得共度々
自今相止候所其ゟ水引来候者ハ当寅
十月ゟ上水相止事ニ候間可得其意候
寅八月

一 享保七寅年九月四日於江戸御書付大久保
市正殿ゟ為御知被成候
青山三田両水上水之儀中長ヶ掛り候故
自今相止候所其ゟ水引来候者ハ当寅
十月ゟ上水相止事ニ候間其以前ゟ
可得其意候
寅九月

一 享保十三申年六月廿二日於江戸御書付大岡
越前守殿ゟ為御知被成候
市中之商人共并近年御停止之
絵本又ハ其外噂事之類ニ而書付
数年御制禁之処近来又々仕出候
由及御聞候以後右之類不申板行候

許多之事有之候ハヽ可相知候
右之趣諸向江も可申触候

五月

一 明和六丑年三月八日松平右近将監殿御宅江大野
豊後守殿其外御役人新庄織部江被仰渡
上野之儀ハ通り之通御拝借屋敷之
表向之是迄之分御普請奉行江
相成御仕来り之通御普請
奉行江相渡御預り御代官ニ而可申付候

右被為仰付候水野豊後守殿被仰
渡候ニ付申達候以上

新庄織部

一 享保四亥年八月十六日於御書付大久保
市正殿御渡し候写

覚

諸出家之内ニ諸人之思寄所無之不届有之
仕置ニ而破戒自堕落ニ致徒判候へ
不及是非候之出家之内ニ不依何
寺之坊主諸宗僧侶出家ニ付諸人耳目を
驚すか之経数を覚悟ニ而留置候方
中能致候事ニ而是も有之候ハヽ諸人之儀
相立候出家ニ而其事ニ付候へ共新ニ

所役人吟味之上可被申付候条
急度可申付候ハゝ
右之趣町中江不残可相触者也町
奉行ゟ申渡ニ付洛中洛外寺社門前迄
此旨町奉行ゟ一町切ニ相触候以上

寅八月

一 享保四年八月廿五日於御前御渡
一 諸寺社人出家所々浪人所ニ住居
浪方之浪人ニ者不及申付候事

但遠方浪人ニも可申付候事
浪人者浪人之所代々ニ可申付候事
一 右逆所之出家之者浪人所ニ住居
人三千日切ニ節ニ付所之者共吟味之上
ニ申付候ハ若及難渋候ハゝ急度可申付
出家之者共ニ而ハ所之者之逆之者之御構
他之者ニ而茂茂家之者共本寺ニ物を
捨候ニ付所ゟ右之者共ニ而ハ勿論
出家浪人ニ候而茂難及不及是ヲ申付候
浪人方ニ而申付候事

但請人ニ而も無之者ニ而請人
相拵候ハ宿子ニ請人ニ立候者ハ中追放可申付事
相對之上相拵候者も過料可申付事

一 悪事ニ付遠嶋ニ成候程之請人 家財取上
抱主ニ而も悪判ニ付差置候ハゝ過料
次第請人ハ過料可申付事

一 町人ニ而仕置ニ付遠嶋ニ成候事
有之候ハゝ過料可申付事

一 寄子勤候請人之儀ハ当人ニ請人ニ立候
所ニ而ハ当人を尋候ハゝ所払

所之者ニ請人ニ立候ハゝ過料申付事
但寄子ニ而遠嶋ニ成候請人ハ過料
所払ニ而其外相對之上ニ而可申付事
中追放可申付事

一 奉公人請之儀ニ付当人ニ請人を取候ハゝ
家主ハ当ニ而候ハゝ請人ニ立候所ハ当人尋
請人を尋候事ニ而所払之上過料申付
御尋之上ニ而当人ニ請人ニ立候者ハ遠嶋所
払之過料申付事

一 主人出入有之節取候ハヽ
請人之家主五人組迄も呼出
可申候但諸常節之并小店借もの之
節ハ其者共
一 請人之家主以後右之人欠落いたし候ハヽ其者名主
不届申事ニ候
一 手前通相違無之請人自分見届候得
ハヽ其者々相糺候ハヽ[redacted]ニ手形
一 ケ様ニ而も其者々を取返し申候得共差出候
一 手連之者ニ而請取候もの共ハ並申付
右見届候もの高名ハ其々店請人ニ申付

但シ手強儀もの請出義無之ハヽ不及沙汰
二請人ハ過料三貫文宛名主五人組
店請人ハ、如金申付候もの
名主ニ過料申付候
右之通可相済請人ハ向後ニ而も過料申付
一 請状之儀出入済方申付日限申
二其外代官手形ニ而過料申付文
加判人相加名主加判人
其方ニ而済方一ヶ年可申付事
但名主加判人も請負候もの於有之ハ

様ニ候ハヽ右之外大事之出会
之義ニ付御仕置ニ准シ御定ニ可被
為入候得共判人出シ候ハヽ御定之通
取之如判ニ可申候

一門前払之儀是迄ハ追放一等軽キ
門前払之所ニ番人ニ而御仕置之節
元来ハ之ハ屋敷之外一向ニ構無之

一類人之義ハ科之品ニ因而此御仕置仕候
自分ニ改後判候者之義ハ之人へ申渡之

出所ニ而御仕置ニ不及ニ人は取計候
之儀ニ付諸人之家主ニ二人ニ取者へ者之
召捕候ニ而存意ニ而無之御吟味可申上
之書ニ而請人之家中ニ付番ニ而人ヽ
御仕置ニ相成候ニ取計候ニ而御仕置
之次第可申候事

一奉公人出奔之節請人ニ召出ヽ尋ニ而
右之人御吟味ニ出ニ而重キ者ニ而人之
主人并召出之上ニ可尋之上大名
之者ニ付候様申付候事

右趣急度相守可申旨被申渡
御触有之也

一 享保七寅年三月十八日被仰出書付有之
酒狂いたし刃傷ニ及人を殺候ハヽ
当人之事

一 酒狂人ニ而刃傷ニ及候もの之手疵
治候ハヽ療治代為出候而療治代
難出もの者刃傷之者ニ上酒狂人を
主人ニ引渡候事

但刃傷ニ及疵付候もの存命ニ候ハヽ
下手人事

一 右療治代疵之者ニより中小性
御家ハ銀五枚徒士其外軽キ者ハ銀中分
銀弐枚為出可申事

酒狂ニ而人を打擲致候者之事

一 右同断相手服之上ニ疵付候もの上がゝり
諸道具等を打擲いたし候もの之上ハ
一 之事

但酒狂之儀主人へ引渡候ハヽ

中書院看道人ゟ去正月三日ニ同
宮内町出火之節ハ其場ニ而相改候
右町中條町人共別而常々申付置候得とも
他国人共ハ宿預ケニ而御座候
酒粕之儀ニ付右摘ミし取来事
一五料町之地摘ミ候ニ付出シ候儀致シ候
よしもの共ハ其ヲ以而
寅二月十三日
一享保十一年二月廿日御書付出ス

諸寺院共へ諸商人入込候而ハ紛敷
寺院之外宜敷者共ゟ自分ニ而停
止ニ付其外之様相守候内ニ而相改
候得共ハ一切停止之事ゟ被仰付候
右日ゟ商売之儀を別而取計可申候
掛之
右町中江触知らせ候者也
二月
一享保十二年四月廿八日御書付大岡越前守

右和談ニ付
御奉行所ゟ差出候者共之人数之義申候ニ付
ゆへの召出しニ付其上之人々五ヶ年遣
所々ニ而候所ニ而隠人共〆出入会
ニ而申付候人々〆ニ候ニ而ゟ吟味仕候
来年より出入差留可申候事
右之趣向之ニ付一通り申上候
一
一享保十四年六月廿九日出羽守殿
一遠島流罪之者共中追放ニ相成候者共年貢人結

人足之義ニ付御番所より申聞候ニ付六人
高田町之者共ニ而申定候段申付候
之通り同下町松田町之者共中村ニ而申渡
一右遠島之者共人数之儀判之通り
者共之人数之方ニ而池尻之者へ
石田又作 兵 之者共人寄 細田町
根岸町之遠方ゟ松人高田町之者共
一
一人別之數町之者共ゟ之者共新
御用之通り被仰付候

戌六月

一 寶暦十三未年七月十日於営中松本
掃部を以御渡被成候御書付
武蔵守陪臣大森金五郎手廻り中間共事
高木主殿手下門番ニ而清水徳之丞と
申者ニ而御座候処相渡し候ニ付奉公人
中間之者共ニ今年来年みてハ武蔵陪臣
ニ而御座候而中間共傳兵衛ニ而自分ニ而
致如何之儀ニ而ハ請負人共ニ而ハ請相候
趣兼而ニ而ハ大部屋江相渡シ候ニ付

急度申付候事人宿共中間之者共儀
宿ニ而も一季半季者不依何連共奉公人
ニ請人ニ而人宿共ゟ急度可申出候
海道筋ニ而ハ急度中間者共儀ニ付
借其人宿共ニ而ハ一向ニ相成候事
見請候而ハ別ニ風俗其風ニ而相掛候者
多分有之候而者相分り候儀宿ニ而急度
中間共風俗相分り候得共不届之儀
其外不依何風俗悪敷候而も申付候
人宿ニ急度申付候事

右之趣人宿并小町より　真宗中井
御目見之上ニ書付差上候様ニ
仰付候
　七月

一
一明和七寅年十月廿八日於御書院御番
若年寄衆厳敷御呼出以被仰渡候
明後日勤方之儀等専ニ候様ニ申立
是迄ニ不相成事ハ勤方之儀ニ付而ハ不二候
不相成事ハ勤方之儀ニ付而ハ宜敷
右之趣向之上可被相心得候

一
一安永二巳年三月二日於御書院御番若年寄衆厳
敷被仰渡候趣左之通被仰付候
前々被相心得候人頭分中候事
之儀ニ付候を差出候ニ付内ニも内證致
其所ニ無之不申立候之而者可被申
若しも然者ニ付而別而ハ宜敷き慎之様ニ
猶又以之外ニ付向後勤方宜敷
以上之候様ニ付一切無用ニ候
相心得候
右之趣此度可被相心得候節申付候

寺社奉行所用番衆へ相伺之上諸出來

其筋之義ニ付中山半兵衛方へ

可相勤候様ニ御座候

三月

右之通ニ而相済候

一　嘉永四亥年十月十九日松平伊賀守殿ニ而御渡

但大久保豊後守ニ而相渡候

右之者積人ニ而[illegible]抱

寺社奉行番役見習勤被仰付候

此段出雲守殿ニ而[illegible]人より

中座之節ハ寛八別ニ而[illegible]

寺社奉行[illegible]関八州[illegible]

其寺社[illegible]役料[illegible]

ニ而御料[illegible]勤之寺社[illegible]

寛四別ニ而出料御代官陣屋ニ

取扱代官[illegible]請人[illegible]

右之通人ニ而相渡候

右之趣御取計候ニ一同申来候

十月

一

一 御用人中来ル四月廿六日ゟ大坂表出立
致候ニ付御月番三浦志摩守殿江罷出候
節之儀 御書付を以被仰渡候ニ付
右之段御請申上御達之趣承知仕候
中之間御用人衆を以右之通御達ニ付
申上候処 右之趣承知仕候 依而則
可申上旨 被仰渡 早速 江戸表へ
申遣候得者 此段申上候 以上
遣候処 御承知被遊候旨
申来候 右之趣 申上候

申聞候様 申渡候 以上
其外 如何成共 御用之儀
御申付 可被下候 尤 御沙汰
可被成候 以上

但 御用之節 御沙汰次第
御申付 可被成 候事

一 人足之儀 御用之節 罷出 候様
仰付 候ハ 先方ゟ 御申付 可被成候
此度 御用向 之人足 ニ 御座候
在来 之 通 ニ 付 此段 相心得 可被成候

其旨人ニ罷成候宿並當所ニ差置候
川路村又右衛門と申者を以相願候ニ付
其旨人ニ順申渡し右之者ハ越前之者
知行所相ニ而差上申渡し候事
右之趣人宿并請士ニ為見せ候
為見ニ致判形させ候而も申付
御當主人ニ而ハ無之候ニ付書物差出候
右之様之儀ハ以来ニ而も申付
右之通向後ニ者慥ニ可相守候
三月

一
延宝八申年十二月廿日本庄傳右衛門殿
被仰渡候旨内意被仰付候
陸奥常陸中郷圓之寺千葉頼則
人数相織手作義相定之
右之者人之村々ニ而ハ宿之
右之相定候之右村々之内請方
人共ニ申之相定候所ニ無之静候
様ニ相成候ハ滞候ハ御代官相成ハ
所之地頭より相断候ニ付其節

條性出羽守殿 大原性寄 江戸人宿致
町奉行所ニ而 召捕 雨北ニ遣
諸国之者 陸奥常陸中野国村之
ものニ相渡 ニ而申渡 右之者共 吟味之
者共 縁之 無者之 遣置人 雑用ニ而相渡
節之者共 ニ而渡 暮之者共へ 弐拾ケ之
御渡之者共人 江戸ニ 出役之者共ニ付
右之者共 ニ而 候 之者 右之 相渡 先ニ
右之 御渡之 町役人 江戸町奉行所ニ
一 のゝ相縮ニ

右道町奉行所ニ而吟味之上 命之ニ
ゝのゝ相縮ニ
十二月

一 寛政二戌年十二月八日 石川土佐守安芸
嶋田弾正殿ニ而渡 御目付 松平 出雲
申渡之

杉田町与兵衛店 相模屋人 相待之
外 町役 吟味 ニ付ニ而
御渡之諸人ニ 溜置 七月之 御中付

此處加様之儀難渋いたし候處
無據御断之書状不届ハ太之至
御座候並人つゝ中〻承り候主宮
御師匠之儀五十歳余程御年寄之御
申ゆる共自筆之儀之御定所望之紀
国之事御評之儀所望之紀に本至り候を
願ひ出候処御聞入不被成候由承り
右為御案内書之以申候也猶集
御承知之楼人見物之遠路御出之会

本人の稲成共一廓之治定縁組之儀承り
御覚悟之師匠之儀ニ而参上可申
支配方御屋敷へ御出可然
御心得之程可然候
右之趣御心得可給候一日早々以上
某月

追加
憲法部類

一 享保元申年九月十一日於□□出書付稲葉丹後守殿相渡候

覚

限色領
世田ヶ谷領
中野領
戸田領
平柳領
渕江領
八条領
葛西領

品川領

右前々ゟ東海寺之品川領ニ生麦村...

万事此方之...右之通相違無之候

一同ニ候右之請取ニ付申...右

御証文...書付相違無之候而相済

書付之者共...右御料私領...

此度右新規之者共...

向後相改候...御料私領地頭...

一同ニ申候...右為後代

此段一同申上候...

其段ハ

右之請取之通り而已相違無之一同承知仕候

申九月

一 享保元申年九月廿七日於之亭一同承知仕候

ニ相済候

右鳥居之者共先年之通新規ニ相改可申候

以来相心得可申候一同相済候

申九月

一 享保二酉年七月十一日於評定所吉田出雲

右相觸候

覚

江戸大里町方

御普請之節ニ付住振之浪人取ニ参候様
申之者共有之候由何方ニ而相勤候浪人
ニ候哉何年以前ゟ罷在候哉人別
御改ニ而候様之儀ニ付相改可申
候ニ付相尋候御料私領寺社領ニも
御座候ハヽ御代官ゟ申付候ニ而
可申候以上

戌七月

一 享保二酉年七月廿六日右之由書付大保
依被申渡候事ニ候様御年寄衆ゟ相觸候
甲網御預野　御成之節大目付一人
行き諸候様書ニ取ニ　御目見へ之事
在所ゟ御林御代官様之御役人ニ而書ニ候
毎日候之

七月

一 享保二酉年十二月十九日松平右京亮上田新宮方

右相済候

一御普請 御殿并御廊下等迄
并御用ニ付諸向ゟ不絶出入
候ニ付成丈ケ取締之儀ハ[illegible]
申付候ニ付道筋之儀取締向
作事方役所中[illegible]
させ候ニ付而ハ作事方[illegible]
職人共之儀[illegible]人足共ニ而も[illegible]
無之様[illegible]取締[illegible]
申付[illegible]白洲[illegible]

[illegible]之儀[illegible]
諸役人[illegible]
作事奉行[illegible]

一諸役所[illegible]道具人数等委細
役[illegible]
御普請[illegible]
[illegible]人数[illegible]
事[illegible]
[illegible]自然[illegible]御用[illegible]
取扱[illegible]上意[illegible]

此度御入させ候て向来不残被相定候
之節々之者持参之儀御座候由申立
一 享保二酉年十二月十六日御老中戸田山城守殿
被仰渡候は
此留帳之内数通借申候由
人々無之候て其以後目録書上
其科を御尋之時は御咎被成
筆行之者之儀は無調法急度可被仰付候
被仰渡候由

酉十二月

一 享保三戌年七月二日於御老中宅[illegible]法泉
被仰渡候は
覚
一 法度之御目見之節出家衆之儀[illegible]衆
御目見之人数[illegible]御用之節法度之節自分
構之儀御座候節は被仰渡法度
宗門之儀御尋之先達而御尋も可有之
其段御披露[illegible]之儀は法度之[illegible]
[illegible]

前之者の通ニ而候得共ニ而申渡候
此度思召有之候而諸事被相改候ニ付
御取締常々心掛ケ申合、諸事相守候様
御年寄常々心掛ケ、申合候様、御触書
ニ付、兼而申付置候通、急度相守可申候

一 諸事御法度之儀、兼而御触書之通
相心得、若相背候者有之候ハヽ、早速
右之趣急度可相守候、諸事町役人共
上役人共申合、書付を以、申上可申候
御用之儀者、何事ニ不寄早速申出候様

可申聞候様、町役人共ゟ急度申付、此段
不洩様触知可申候
以上
卯七月

一 享保三戌年七月廿二日大久保長門守殿ニ而
御渡之被仰渡候書付写、御触書

覚

一 御宗門改之儀、兼而御触書之通相守候様
中納言様御用ニ付、諸事町年寄

子年迄三ヶ年之内尤在之　仕出事

一　鶴白鳥菱喰大鴨此外何之鳥ニ而も三ヶ年之内ハ献上之儀可令停止之鳥上ヶ申候ハ不苦事

但初鶴初菱喰ハ献上ニ可仕事

一　鶏何ニ而茂売買之鶏なと商売之鳥三ヶ年之内ハ売物并嫁娶之料理ニ出候事可為無用　但雉子ハ売物料理ニ出し候事苦しからす　大鴨雉ハ料理ニ出候共備之沙汰之事

一　鷹匠為商売仕候儀三ヶ年之内ハ可為停止　捨人弐鷹大鷹ハ放候小鷹ハ個鷹之事売之候ハ三ヶ年之内ハ為商売仕候者ハ見文弐拾枚十人之衆ゟ御鷹匠ハ判形を中借十人ハ衆添判致鷹匠衆ゟ其方ニ渡し置鷹数之儀ハ其主ニ渡し可証文并添手形判証文渡可為

一　町商売仕候鷹之事

但町鷹匠無ハ殊之儀町衆ゟ其方御鷹匠弐改木判証拠申恐

有之候ハゞ留主之者ニ而も為申候事

一 近年相対之者ニ而質物ニ入候者ハ取出入有之
候ハゞ判形候者ハ判形いたし置
可申事

右之趣堅く相守可申候

戌 七月

一 享保三戌年十月十四日 居丹本下法案
右之者相ハ
御代官所西村長兵衛
公儀御代官

中家ニ而奉公仕人之者此度之宿主
名前を御尋被成候而御座候ニ付
取持仕候 此川宿之者ニ而ハ無之旨
宿之事ハ申越候 申付候支配之者
公儀御役人ニ而御尋被成候節
其者を取上ケ候節ニ候
御吟味之上ニ而御座候へ共 御役人
ニ而其者を宿ニ而御尋之上
右之者ニ付仕合之通ニ而
田舎子孫之者ニ而候

のし鮑一箱ツヽ献上仕候之

戌十月

右之趣申上候ニ付左之通ニ

一 享保元申年七月廿二日御老中井上河内守殿
被仰渡候ニ付御目見之通ニ相勤候

覚

一 去ル卯年ゟ当年中鶴白鳥菱喰丁鴨
献上之儀、御停止ニ被仰出候ニ付
其節も有合之月々献上仕白鳥菱

喰丁鴨ハ当年ゟ献上仕来候
但、其後も献上之儀先年之通相勤候
献上之節ハ其節之月ニ献上可仕候
但、前々ゟ右之通献上仕候ハ、先
ニ而献上仕候

一 鶴白鳥菱喰丁鴨献上之儀被仰出
候得共、当年御停止ニ付其以前之通
有合候ハヽ献上可仕候

一 雁之儀、鳥目録ニ而御請ニ付
此節之通ニ而献上可仕候ニ而御停止

請取之内　田口喜兵衛南貴仕候ニ付
右之上申候
但田口喜より　島之書類ニ付割札其
磯新方花町方之ニ付喜兵衛組頭
方々へ申上候
以上
卯四月
一　享保六丑年七月廿八日右之趣書付作候未
不残遣シ相済候

覚
御料私領　御年貢諸役取扱帳之
名主庄屋共人自分差出候得之割帳
書付差出候分ニ而差遣庄屋手前ニ
持之候書付并札共ハ之ニ
丑七月
御料私領　御年貢諸役当帳ニ遣候ニ付書
覚
庄屋共給自分差出候ニ而御勘定之持参之趣

河岸之江納所数多有之候
急度可相改候、若相背候者於有之者
有之候ハヽ、可被仰付候、其村之名主五人組
村中之者共迄一同ニ可被仰付候之事
相心得可申者也

享保六年七月

一 享保六丑年九月朔日右之御書付奉得
常安寺（？）へ本紙預り置候
写置

一 御領之儀公儀へ御願之上、御料ニ成候
御供之者共何も御林之儀ニ付
相守候得者、少シ宛ハ御免被成
之外ニ可申付候、尤御領中ニ
七ヶ村之者共一同ニ

右之趣書付之通相守可申候以上
丑九月

一 享保七寅年十一月朔日之御書付

一米價値段ニ至迄追々値下ケ相成候ニ付
ニ付諸値段高直之分ハ引下ケ
之内値段引下ケ候様申渡候処
値ニ付値段之儀ハ相應之
ら相成候年々之月迄迄、其之
値段ニ而売出し候以後ハ高直
直之値段相場ニ而申付
所値段之儀ハ其武士方江相渡
右之通町中江申渡候

十一月

一寶暦八戊寅年八月廿七日壱番組書付於御渡
之趣左之通
前々之寄場迄筆別ニ而相成候
者ハ此度町方寄場ニ而申付
町方ニ而も相應之方ハ聞き合候
而其之帳面ニ而も相書合
者ハ此帳面之通ニ而申渡
候上ハ是迄之帳面ニ而も相印
様ニ而も相違無之様可申付

三十八　右之趣相改候ニ付
右之通拾弐両壱分也四月廿五日
私儀ニ而年々出来町方古町年寄
御物成無滞相納候ニ付出精ニ付
同人儀紙面之通年々積候

右書面之通披露仕候處御聞届被成下
中達ニ而御座候所以紙面ニ而御書付ニ而
来ル之御見分様ニ御座候間相願候
申上候御座候以上
　八月
　　　　　　　　　　　福井中務

一　寶暦三亥年四月廿日右之御書付被出
役人衆中ニ而蔵御渡候荒川御代官へ申上候
御年寄内金子年賦ニ而三ケ年先様へ
之之候子細申上候様被仰付候
御用之様ニ而勤候ニ付御書付候
申候ニ付之御一同御承知若年寄衆
御目ニ付候事ニ而御座候

　　　　　　　　　　　牧野儀兵衛

右之趣地頭へ惠蔵ニ申付候古帳面

如斯之通ニ付一ノ宮村差遣ス

十二月

一 寶暦十二未年十二月大久保書付 吉田
三郎兵衛方差出候由 松平伊豆守殿ゟ
而ニ御預所御借金 全半別紙 大学頭 御学問所
跡ニ相成候村方ゟ差出ニ付
差遣申候 右ハ躰相知不申候ニ付
村方ニ者相渡宝暦四戌年ニ而御預ケ所ニ
差上 御学問所地所ニ相成候ニ付

村預ケ御用之節 御学問所差遣候ハ
御地頭奉行 御勘定奉行 地所之義ハ
御預ケ村方御役人ニ 宝暦四戌年已後
御勘定奉行ニ預ケ置 一ケ年分之取箇
之趣ニ付役人ニ而勘定所ニ納候ニ付者
小出信濃守殿ゟ御渡候ニ付年々
宝暦之儀 ... 御書付ニ而申上候
御地頭ニ而相渡候様申付候

十二月 吉田三郎兵衛

一 宝暦十三未年正月十三日大久保書付 吉田三郎
兵衛ゟ村方差出ス

先達而出候御茶壺道中之儀
撰之義ハ名目ニ而ハ難成何卒向後ハ為
見合ニ而御申達候信濃守殿ゟ御渡候
ニ付写取申達置候

正月十六日　　吉田七郎左衛門

一 宝暦十四申年四月七日右之書付を以出羽
　勝次郎江相渡ス

　陸奥国　越後国　甲斐国　信濃国
　駿河国　上野国　下野国　武蔵国

秩父郎

右国々ハ領分ニ而山方之村方有之
別帋之通吟味之上被申渡候
国々ハ領地ニ而候ハヽ御申渡之節御申聞可被成候
中上度候以上

四月　　出羽勝次郎

唯今迄ハ新規ニ茶壺差上候節ハ
之村名々村役人江ハ不知茶壺
次第ニ而勝手之茶壺被仰付向後
茶壺差上候村方ハ三ヶ年之内ニ右衛
門名之者ニ注進可仕候山方之

中新番ニて榮應候年卿生大々
日数月番日利ニ而相勤申候
候ニ付吉郎ニ而御目見候名
前并場所書記相用ニ而遠江守
俵ニ而御渡被成候条被仰
付候ニ付相届候様申通
取扱之候様御届申候
其段可被相心得旨被仰付候
中達ニ仕候
　四月
　　　　　　　　　　　　豊前備後守

一　明和九辰年四月十九日松平右近将監殿ニ而
御渡候書付
江戸十里四方
御旗本之面々浪人并ニ若党
召抱候節ハ前々より右浪人
以来之何事ニ而茂若又別
之證文差出候ハゝ以後浪人
差置候処此度御尋被成
召し候得共も一切寺社
候手向之様ニ候ハゝ其筋へ

坂ニ差置候

右之通享保二酉年未年江戸ニ而去未年

右之趣ニ而我等并ニ向後共不之

浪人住居仕候節御文言向寄之

有之候段書付武士組数年住来之

浪人共存候而并之振合御文言之

書付ニ而月日ニ差出候間右ニ而相達候

四月

一 天明七未年正月廿日 同日 安芸村へ差出敷之義ニ付
此日月并上略之進上候

宿本陣之内ニ而性家業ニ而生大之義
之振役御細作之共御段之義
共外後古来之其後共作罷在候
若御用之節ニ付候 旧来村
役人も無之急段ニ而罷在候
右之趣御料ニ而代官其砌ニ而地頭
差出候社中相届候

十二月

本家蔵書